

2) アユの冷水病に対する薬剤の治療効果(2)

二宮浩司・酒井明久

【背景】アユの冷水病に対して、スルフィゾーラムの治療効果が確認されたが、本薬剤は現在、国内で生産されておらず入手が困難な状態にある。

【目的】スルフィゾーラム以外の薬剤の冷水病に対する治療効果試験を行うとともに、スルフィゾーラムの治療効果の確認試験を行った。

【成果概要】

1. 平成7年12月エリ採捕魚を直ちに各試験池（0.6m³）にそれぞれ1.5kg（尾数にして約2500尾）ずつ導入した。池入れ後、1週間目頃から各試験区に冷水病によるへい死が始まったため、次のような投薬試験を行った。
2. 冷水病発症魚群に対して、①FF（フロルフェニコール）の経口投与（10mg/kg・日、7日間）、②①+SIZ（スルフィゾーラム）の経口投与（200mg/kg・日、14日間）を行った（図1）。
3. 両試験区ともにFFの経口投与では、対照区と比べてへい死量がやや軽減されたものの、へい死を抑えるには到らず、十分な治療効果は確認されなかった。
4. ②のSIZの経口投与では、投薬開始4、5日目からへい死が減少し、治療効果が確認された。
5. 各試験区のへい死魚79尾に対して、魚病検査（抗冷水病菌血清、アピ20NE等使用）を行ったところ、全体の約80%近くから冷水病菌が分離された。また、冷水病菌の他に、エロチス属細菌、シュートチス属細菌（現在アユで問題となっているシュートチス病の原因菌とは異なるタイプ）等が分離され、冷水病罹病魚は他の細菌との合併症や菌交代症が起こりやすいことが示唆された（図2）。

【成果の活用】スルフィゾーラム以外のアユ冷水病に対する治療効果のある薬剤は確認されなかった。

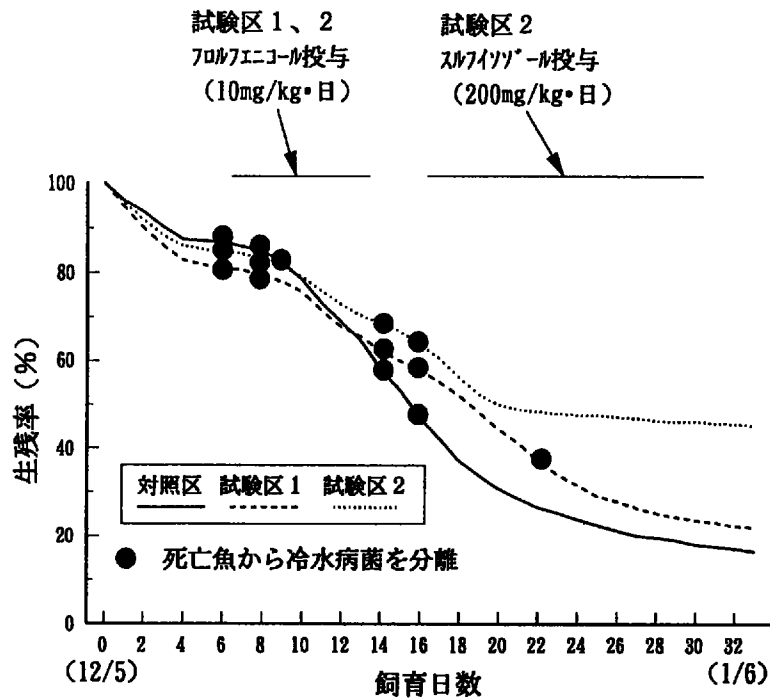
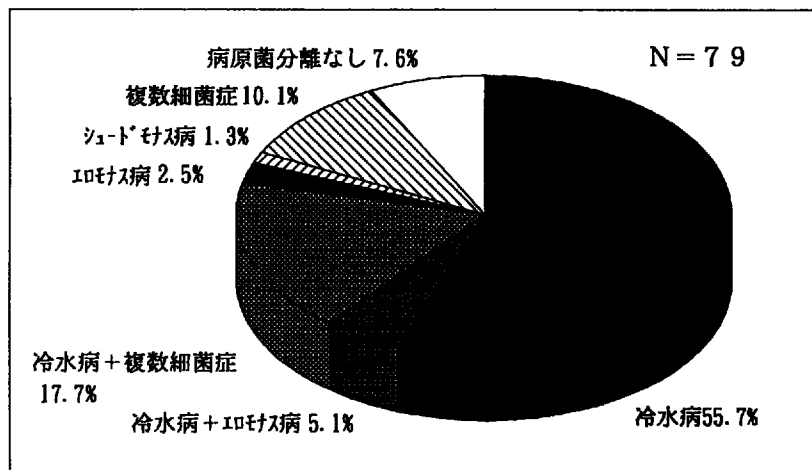


図1. アユの冷水病に対する薬剤の治療効果効果 (3)



エロモナス病病魚から分離したエロモナス属細菌		5株
<i>Aeromonas sobria</i>	(7176755)	3株
<i>Aer. sobria</i>	(7176754)	1株
<i>Aer. hydrophila/caviae</i>	(7577754)	1株

複数細菌症病魚から分離した細菌		6株
<i>Aer. hydrophila/caviae</i>	(7577754)	2株
<i>Aer. hydrophila/caviae</i>	(7477754)	1株
<i>Aer. hydrophila/caviae</i>	(7476754)	1株
<i>Shewanella putrefaciens</i>	(1411354)	2株

シュートモナス病病魚から分離したシュートモナス属細菌		2株
<i>Pseudomonas fluorescens</i>	(0157555)	2株
※抗シュートモナス病菌血清 (-)		
→養魚場で被害を出しているシュートモナス属細菌とは異なるタイプ		

図2. 魚病検査結果 (平成7年12月エリ採捕魚).